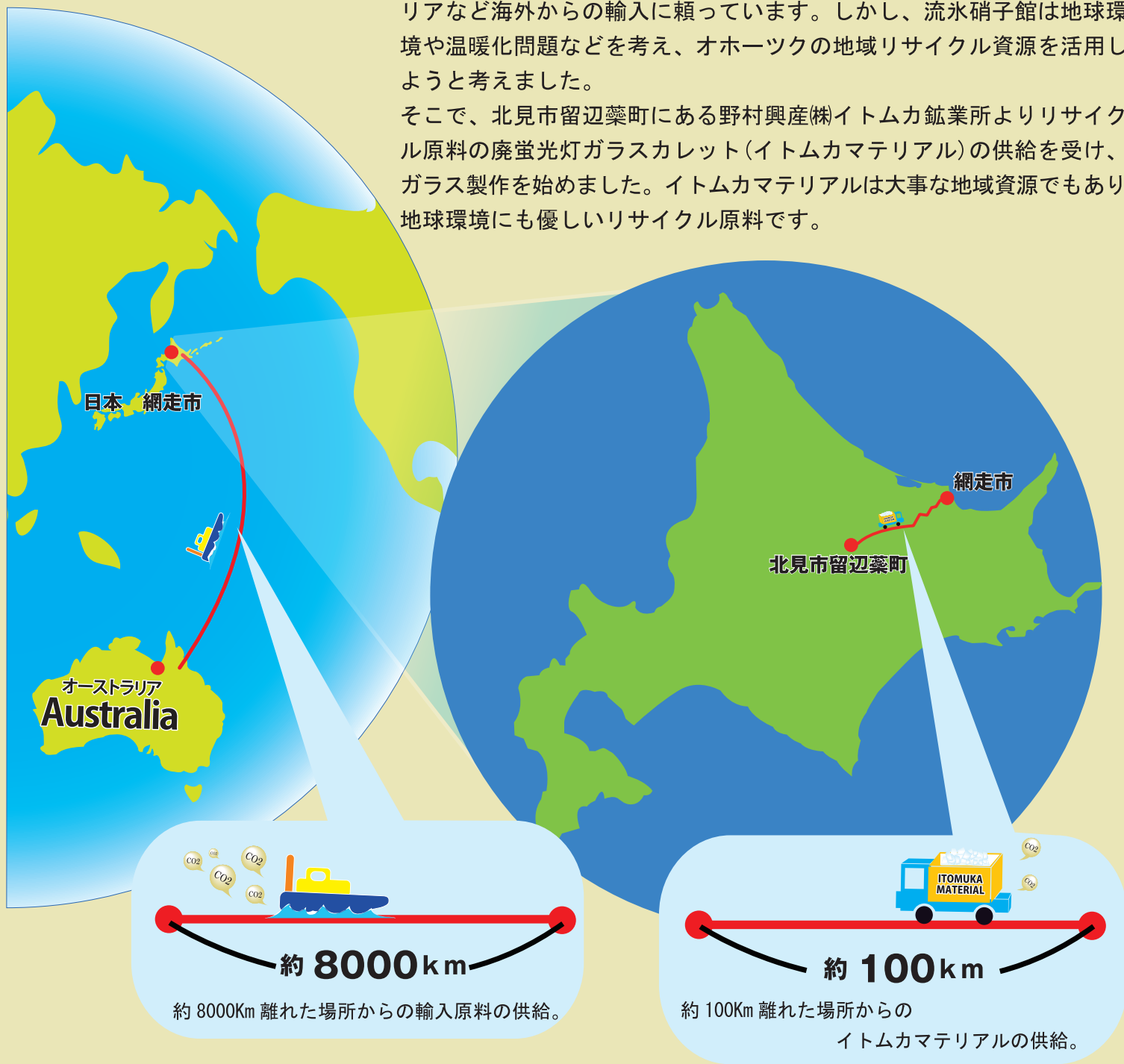


# リサイクル原料×地域資源の活用でCO2削減

日本国内におけるガラス製作の現場では、原料のほとんどをオーストラリアなど海外からの輸入に頼っています。しかし、流氷硝子館は地球環境や温暖化問題などを考え、オホーツクの地域リサイクル資源を活用しようと考えました。

そこで、北見市留辺薬町にある野村興産(株)イトムカ鉱業所よりリサイクル原料の廃蛍光灯ガラスカレット(イトムカマテリアル)の供給を受け、ガラス製作を始めました。イトムカマテリアルは大事な地域資源でもあり、地球環境にも優しいリサイクル原料です。



ガラス原料を海外から輸送する際に発生するCO<sub>2</sub>の量は、明らかに膨大です。

流氷硝子館では、リサイクル原料を1年間で約14t使用しています。同じ14tの海外輸入原料の輸送とイトムカマテリアルの輸送に排出されるCO<sub>2</sub>の差は約6400kgと考えられます。

CO<sub>2</sub>の量6400kgとは、樹齢80年の杉の木460本が1年間かけてやっと吸収・排出できる量です。



※輸送の際に発生するCO<sub>2</sub>の発生量や杉の木のCO<sub>2</sub>吸収率は国土交通省、林野庁調べです。